



## “危険を感じたら” 「立ち止まろう」！ 「相談しよう」！

西部電気工業株式会社

### 1. はじめに

西部電気工業株式会社は今年7月3日、創立74周年を迎えました。

本社を福岡市博多区におき、地元九州の今後さらに高度化する通信ネットワークの構築をはじめ、ICTを駆使したビル設備のスマート化による快適なオフィスのご提供、環境保全に寄与した新エネルギー関連システムの構築による安心・安全のまちづくりなど、西部電気工業グループの総合力でみなさまの生活の基盤を支え、これまで以上にICT技術を核とした社会インフラの充実・高度化に貢献しているところです。

### 2. 2021年度 西部電気工業グループの安全目標

2021年度の安全スローガンを“危険を感じたら”「立ち止まろう」！「相談しよう」！と定め、当社の『労働安全衛生方針』と『安全の5本柱』などを基本に、モバイルキャリアの5G拡大、ROの展開や新型コロナウイルス

ス感染拡大に伴うWithコロナ、アフターコロナへの対応など新たな事業運営に向けた安全管理体制を構築して西部グループ全体の安全管理に取り組んでいます（図1・2）。

### 3. 事故防止の取組み

2020年度は当社において、人身事故4件、設備事故2件を発生させてしまいました。

このことから、現場が安心して作業ができる環境を作るとともに、現場の安全を施工班まかせにしないための取組みとして、以下の取組みを実行しているところです。

#### (1) 対話型安全パトロールの実施

安全行動の可視化と施工現場、事務所連携による安全確保状況の共有化を目的に導入した安全CREMASの施工班位置情報確認機能を活用して、全班月1回以上のパトロールを実現するとともに、対話型パトロールの対話項目を充実させて、施工班の特徴に合わせたきめ細やかな指導やメリハリを効かせた安全パトロールを実施して

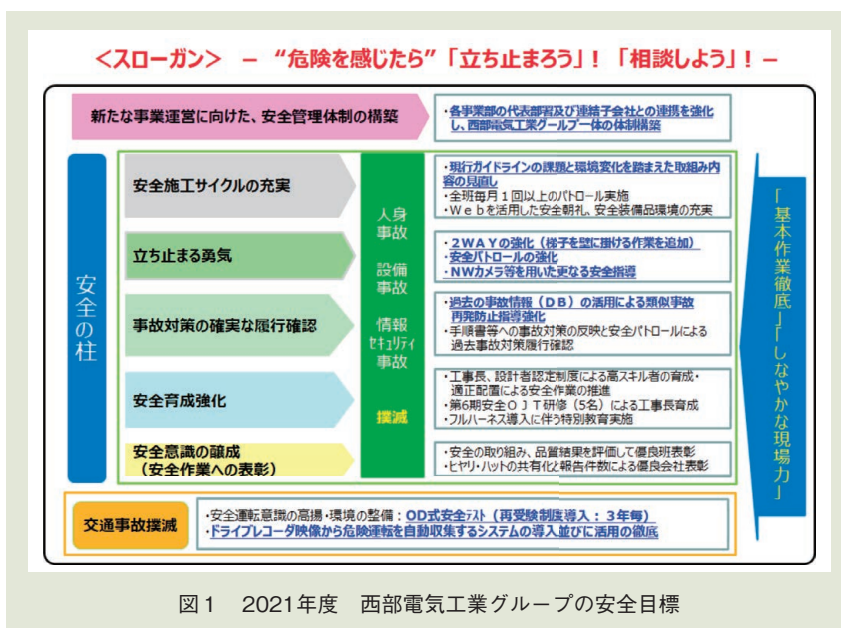


図1 2021年度 西部電気工業グループの安全目標



図2 2021年度 安全スローガンポスター



様式		対話型パトロールシート		【安全パトロール実施者用（工事長等）NW版】	
安全パトロール実施日		協力会社名	名前	職	安全パトロール者氏名
No.	チェック	スクリプト			
1	<input type="checkbox"/>	今日の作業工程と作業長手帳を熟読していただき、作業日曜と相違はありませんか？			
2	<input type="checkbox"/>	〇年〇月に発生した〇〇事故は知っていますか？（近々で発生した事故連絡）事故の原因・対策について教えてください。			
3	<input type="checkbox"/>	安全主要装備品について確認してください。 保護具、安全帯、紐、梯子の点検状況はありますか？（近々で発生した事故連絡） （その他、現場状況に応じてヘルメット、保護メガネ、保護手袋も確認）			
4	<input type="checkbox"/>	今日は分断シールド及び防塵養生等の実施は行いましたか？			
5	<input type="checkbox"/>	この現場では明確KYを行っていましたか？このよう注意を促すこともしましたか？この現場で最も注意すべき、危険なポイントは何ですか？このうち、注意喚起が必須なものはありますか？			
6	<input type="checkbox"/>	作業現場に到着し、作業長と話をし、作業停止の場には必ず行なうことはありますか？			
7	<input type="checkbox"/>	平穏な場所、前下りの場所、駐車した際の停止方法について教えてください。			
8	<input type="checkbox"/>	コールリーダーについて知っていますか？今日は誰がコールリーダーですか？注意した行動はありましたか？			
9	<input type="checkbox"/>	日々の作業で時間が足りなくなり、焦ることはありますか？その場合はどのように対応していますか？			
10	<input type="checkbox"/>	緊急に作業が滞る場合、誰と相談しますか？これまで、そのような相談をしたことがありますか？相談したことがある場合、いつ、誰と、どのように相談をしましたか？			
その他	<input type="checkbox"/>	その他、最近、作業してきて気づいたことはありますか？（安全パトロール者も記入）			
備考		コールリーダーがベテランは活用しているか？【※遠隔作業時は危険防止のため着用しない】			

図3 対話型安全パトロールのスク립ト



写真1 NWカメラの導入

います（図3）。また、協和エクシオグループとして、クロスパトロールを実施し、気づきによる活性化を図っています。

■対話型安全パトロールのポイント

- ① 当日のすべての施工に対する安全主要装備品の確認
- ② ボイスKY、2WAYの現地確認
- ③ 直近で発生した事故情報の共有状況および要因等による、してはいけない不安全作業の確認
- ④ 現場作業での困りごとの聞き取り

(2) NWカメラの導入

現場の安全を施工班まかせにしないために、これまでに100台（福岡：25台、長崎：25台、鹿児島：35台、保守：10台、所内：5台）のNWカメラを導入し、作業の見守り施策に取り組んでいます。

見守る側の環境としては、本社安全品質推進本部・エンジニアリング部、各地区のエンジニアリングセンターおよび各事業部へ大型モニターを設置して、日々リアルタイムで見守りを実施しているところです（写真1）。

(3) コールリーダー制度の導入【指示事項】

コールリーダー制度は、今年度の安全スローガン（“危険を感じたら”「立ち止まろう」！「相談しよう」！）にも謳われているように、施工班内の風通しを良くして、誰でも危険な作業に対して意見が言える風土を造るために、危険作業を止める確認点の多層化として導入しました。

コールリーダーの役割としては、過去の成功体験で作業しがちな班長やベテラン社員の危険な判断や動作に対して、率先して注意を行い、事故を未然に防止することが重要な役目となります。作業前のボイスKY時に班長から指名されたコールリーダーは、「コールリーダー」

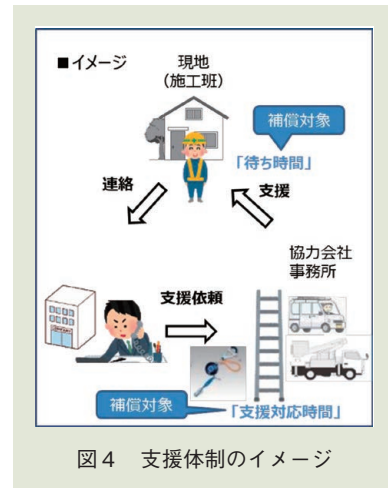


図4 支援体制のイメージ

ワッペンを着用し、仲間を守るために活動を実施中です。

(4) 支援体制の確立

予定工数に対して、急きよ作業員の欠員が出る等の工数切迫が発生した場合に施工会社に無理な施工をさせないために、前日に再確認して全体オーダー調整を実施しています。

また、レスキュー用安全主要装備品を配備するとともに、現場で安全に作業するための車両・装備品が必要になった場合、支援を依頼して施工班の「待ち時間」および協力会社事務所の「支援対応時間」に対し対価を支払うことにより、支援を要請しやすい環境づくりに努めているところです（図4）。

(5) 現場からの安全提案活動の充実（小集団活動）

近況の事故をテーマに、現場でできる改善施策や対策を提案していただき、優良な提案については安全品質本部のホームページに掲載して視える化し、各社の現場で

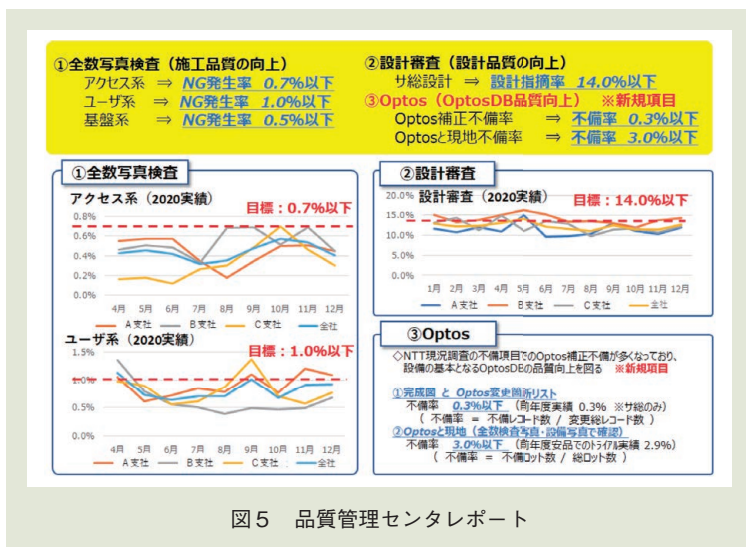


図5 品質管理センターレポート



写真2 模擬実演DVD

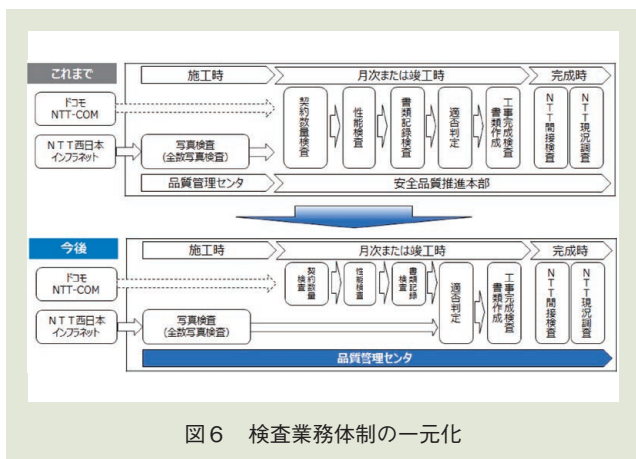


図6 検査業務体制の一元化

活用できるように水平展開を図っています。また、優れた提案をいただいたグループ（小集団）を表彰することにより、さらなる安全提案活動の推進を目指しています。

## 4. 品質向上への取組み

### (1) 品質管理センターレポート

施工品質、設計品質およびOptosDB品質の向上に向け、品質管理センターにおいて毎月の検査結果を分析したレポートを作成し、それをもとに各施工班の出来形不備に対する解決策を立て、実行する事で品質の確保をしています（図5）。

### (2) 模擬実演DVDの作成

新しい工法並びに設備事故防止に必要なポイントは、模擬実演DVDを作成し、施工前に視聴させることで、設備の安全確保に努めています（写真2）。

### (3) 検査業務の一元化（事業部単位）

安全品質推進本部（福岡、長崎、鹿児島）では、契約数量・書類記録数量・性能・書類記録検査等の業務を、また品質管理センターでは全数写真検査業務と、それぞれの組織で業務を分担して実施していましたが、書類検査については自立的取組みとなったため、施工から竣工までの検査業務の効率化と品質の確保を目的に検査体制の確立を行いました（図6）。

## 5. 教育訓練

安全品質向上のための人材の育成をするにあたり、設計・施工技術力および安全に関する知識・法律等の習得を目的とした教育を実施しています。

### (1) 直営研修

現場力・技術力を持ち、安全・品質に関する目利き・指導ができる技術者育成の研修を行っています。概ね入社5年目で直営工事研修に参加し、研修終了後は実務経験を重ねることでスキル向上を図ることにしています。

主なカリキュラムとしては、設計・材料算出等スキルの習得、外線・宅内施工のフィールドにおける実習訓練、実験棟にて接続実習を行った後に、実践として福岡エリアのサービス総合工事を約3カ月間にわたり実施しています。

### (2) 安全専任者業務OJT

アクセス系社員の育成については、2016年度から実施している育成プログラムにもとづき、安全に対する指導力、知識・分析力を備えたアクセス系技術者を育てるために、直営研修を修了した社員（6年目以降）を対象



## ☆安全専任者業務OJT☆

カリキュラム	
① 履学 (7日)	・施工管理マニュアル ・安全専任者研修マニュアル
② 実務研修 (16日)	・安全専任者の同行パトロール ・研修生のための安全パトロール ・成果確認のための安全担当課長との安全パトロール
③ 研修 (7日)	・安全専任者研修: 2日間 (ITEA主催) ・RSTトレーニング研修: 5日間 (中防災主催)

西部電気工業株式会社  
安全品質推進本部

図7 安全専任者業務OJT

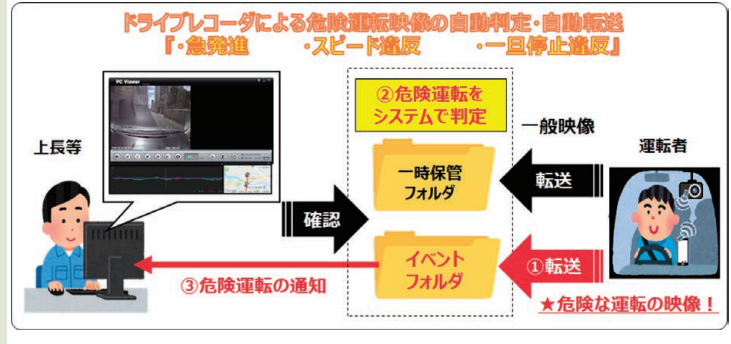


図8 危険運転の自動判定・自動抽出

に、「安全専任者業務OJT」を約半年間かけて実施し、安全スキルの向上を図ってきています。

今後も、現場に最も近い工事長が、安全第一で施工管理業務を遂行できるようOJTの充実を図っていきます(図7)。

## 6. 資格制度の充実

最大限の利益確保に向けて、徹底した効率化を実施し、工事長・設計者に求める要件を明確にするとともに、達成状況の確認と社員のモチベーション向上を図ることを目的に「工事長資格認定制度」および「設計者資格認定制度」を導入しています。

### (1) 工事長資格認定制度

直営工事研修受講者を対象に施工管理業務に関する技術力、工事経験、危機管理能力および対人能力等を総合的に判断し、工事長を3つのランクに分類し認定

- ①総合工事長 (SAランク)、②工事長 (Aランク)、③工事長補佐

### (2) 設計者資格認定制度

これまでの「設計経験」、「設計資格候補者選出表」および、「認定試験【筆記】+認定試験【実技】」の結果を基に、設計者を4つのランクに分類し認定

- ①総合設計者 (SAランク) ②設計者 (Aランク) ③設計者補佐 (Bランク) ④設計担当者 (Cランク)

## 7. 交通事故絶滅に向けた取り組み

ドライブレコーダの導入や安全運転表彰制度等、交通事故絶滅に向けて各種施策を講じてきましたが、昨年度は加害事故および自損事故が前年度を上回ったことか

ら、これらの施策をさらに充実させ、運転者1人ひとりの安全意識の醸成を高める取組みを進めています。

### (1) ドライブレコーダを活用した危険運転の自動判定・自動抽出

2018年度から導入を進めている日々のドライブレコーダ映像を自動でサーバに収集する「ドライブレコーダ映像自動収集システム」の映像データを活用し、その映像データから危険運転を自動判定・自動抽出し上長に知らせることにより、運転者への注意喚起等適切な指導を行い、交通事故を未然に防ぐ仕組みを構築中です(図8)。

### (2) 「優良運転ポイント制度」の導入

運転をする社員1人ひとりが安全運転への意識を高揚し、それを継続していくことを目的に、“無事故継続運転距離”ならびに“無事故運転回数”でポイント(走行距離1km=1ポイント、運転回数1回=1ポイント)を付与し、これまでに、表彰ポイント(10,000km走行、50,000km走行および300回運転)を達成した約100名を表彰しています。

## 8. おわりに

2021年度は、業務運営体制の見直しや構造改革ガイドラインSTEP2の取組みなど、変化に適応した事業運営が求められる中で、西部電気工業グループ一体となった安全管理体制を構築し、安全ルールの遵守、基本動作・指差し呼称の徹底により、類似事故の再発防止に努め、全社員が安全・健康で、お客様の信頼に誠心誠意応えられるよう努力してまいります。